

# 名医にズバリ聞く!! 歯科治療最前線



ク・I 院長 歯科総院  
リニエック  
エック  
江雄

**Q** 虫歯治療は受けたが炎症がひどくなり、歯肉が腫れ上がっている。抜歯を勧められたが、まだ、根はいけると思うし、なんとか、自分の歯を活かすことはできないだろうか？ 自分の歯が無理でも入れ歯は避けたい。その時はどうすればいいかアドバイスをお願いしたい。

(会社員42歳)

歯の再移植にも積極的に取り組み、成功しているイリエ歯科I Kクリニック総院長の入江雄一郎医師に聞いてみた。

「これまで、似たような患者さんがいて、ひどい虫歯でかなりの炎症を起し、抜歯することになった歯がある。一旦、抜き、虫歯で穴の空いた部分を治療し、きれいに穴を塞いだ後、同じ場所にその歯を再植した」。結果は成功。歯根膜靱帯の組織がまだ元気な場合は、もとのようにつけることができる。

入江医師は、事故などで向きが歪んでしまった歯を再植で元に戻したこともあったそうだ。

ただし、希望者全員の歯が再移植可能というわけではない。歯根膜靱



一見して入れ歯とわからない  
マグプラント(上部部分)

## あきらめないでほしい！一度抜いた歯を再生『再植治療法』

【プロフィール】入江雄一郎(いりえゆういちろう)医師 1990年、大阪大学歯学部卒業。米国ロマリンダ大学審美教室(DUNproff)研修。I・C・D・I・レーザーホワイトニングセミナー講師。審美歯科学会会員。

【所在地】「イリエ歯科I Kクリニック」大阪府中央区南船場3ノ4ノ26 出光ナガホリビル12F(地下鉄心齋橋駅から徒歩3分)。問い合わせは、大阪インプラント総研 ☎06・6281・8444まで。

帯の組織の状態などによっては、無理な場合もある。

しかし、再植が難しければ、本物に近い感覚で歯をよみがえらせる「インプラント」(人口歯根を作る治療法)という方法もある。また、欠損歯の数が多い場合や現在、従来型の入れ歯で悩んでいる人には、「マグプラント」(インプラント技術を応用しマグネットを取り外し可能な総入れ歯のようなものを入れる治療法)も勧められている。

ともに、見た目は自然の歯に近く、少々固いものでも食べることができ、自分の歯がよみがえった感覚である。

気になる治療期間だが、入江医師は時短にも成功している。短期集中治療なら4日間で仕上げることも可能だ。従来のインプラントが3カ月、遅ければ半年と治療に時間を要したことを思えば、正に画期的といえる。「患者さんのために確かなものを早く完成させてあげたい」という強い思いから、最新鋭診断画像処理システム骨増幅用補充材、術前プレオペレーションによる予定加工など、歯科医師と技工士の技術とチームワークで約4日間で仕上げるシステムを創り上げたのだ。

歯をなくしても、今や嘆くことはない。歯をよみがえらせる方法はいろいろあるからだ。